

## 武田 美保子教授 略歴及び著作目録

1952年	広島県生まれ
<b>学歴</b>	
1974/3	南山大学文学部英語学英文学科卒業
1978/3	南山大学大学院文学研究科修士課程修了
1981/3	南山大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学
<b>学位</b>	
2001/2	博士（文学）
<b>職歴</b>	
1984/4 - 1987/3	名古屋短期大学専任講師
1987/4 - 1994/3	名古屋短期大学助教授
1988/4 - 1989/3	米国プリンストン大学客員研究員
1994/4 - 1998/3	名古屋短期大学教授
1998/4 - 2005/3	京都女子大学短期大学部教授
2002/4 - 2006/3	南山大学大学院文学研究科非常勤講師
2005/4 - 2017/3	京都女子大学文学部教授（定年退職予定）

### 研究業績

#### 著書

1. 『読むことのポリフォニー—フェミニズム批評の現在』 共著 ユニテ 1992/7
2. 『読みのパノラマ—英米文学論集』 こびあん書房 共著 1994/3
3. 『異文化への視線—新しい比較文学のために』 共著 名古屋大学出版会 1996/3
4. 『ジェンダーは超えられるか—新しい文学批評に向けて』 共著 彩流社 2000/3
5. 『〈新しい女〉の系譜—ジェンダーの言説と表象』 彩流社 2003/5
6. 『ギッシングの世界—全体像の解明をめざして』 共著 英宝社 2003/12
7. 『テキストの地平』 共著 英宝社 2005/3
8. 『ギッシングを通してみる後期ヴィクトリア朝の社会と文化』 共著 溪水社 2007/11
9. 『イギリス文化事典』 共著 丸善出版 2014/11
10. 『アダプテーションとは何か—未来への応答』 編著 世織書房 2017/3（予定）
11. 『フランケンシュタインの子供たち—増殖するテキスト』 編著 彩流社 2017/3（予定）

論文 (書評を含む)

1. 「"Ivy Day in the Committee Room"分析—裏切りのテーマのプロトタイプ」南山英文学 第3号 1978/12
2. 「ブルームとステイブンの出会いについて」南山英文学 第5号 1980/12
3. 「<いま>をめぐる 考察—『ユリシーズ』論」中京大学教養論叢 第25巻/ 第2号 1983/9
4. 「Bloom の変容—『ユリシーズ』分析」名城商学人文科学特集 第33巻/ 別冊 1984/12
5. 「変容する自己—*Ulysses*の仮面劇」名古屋短期大学研究紀要 第23号 1985/5
6. 「<姦通小説>としての*Lady Chatterley's Lover*」名古屋短期大学研究紀要 第24号 1986/7
7. 「<女>を読む『ユリシーズ』」名古屋短期大学研究紀要 第25号 1987/10
8. 「『ドラの症例』をめぐる」名古屋短期大学研究紀要 第28号 1990/6
9. マリアンス・ハーシュ著『母と娘の物語』（寺沢みずほ訳）紀伊國屋書店（書評）週間読書人 1992/11
10. 「狂気の政治学—*The French Lieutenant's Woman*の二重構造」英文学研究 第69巻 / 第1号 1992/9
11. 「メディアの『ユリシーズ』—「ナウシカア」分析」イギリス小説ノート 第8号 1993/5
12. 青山誠子・川地美子編『シェイクスピア批評の現在』研究社出版（書評）週間読書人 1993/5
13. 「拘束と解放の狭間で—*The Odd Women*における記号的身体」英語青年 第141巻/ 第4号・5号 1995/7・8
14. Susan R. Horton, *Difficult Women, Artful Lives: Olive Shreiner and Isak Dinesen, In and Out of Africa* (Johns Hopkins UP) (書評) 英語青年 第141巻/ 第12号 1996/3
15. "Between Emancipation and Restraint—Reading the Body in *The Odd Women*" *The Gissing Journal* (Fact & Fiction) XXXII/ No. 2 1996/4
16. 「異性愛でもなく同性愛でもなく—欲望する／されるレベッカ」英文学論叢 第42号 1998/12
17. 「ヒステリー／メランコリー—レズビアン吸血鬼小説「カーミラ」」英語青年 第144巻/ 第10/11号 1999/1・2
18. 「揺らぐ男性性—『ボストンの人々』におけるジェンダー・ポリティックス」イギリ

ス小説ノート 第11号 1999/5

19. 利根川真紀編訳『女たちの時間—レズビアン短編小説集』平凡社ライブラリー（書評）英語青年 第145巻/第4号 1999/7
20. 「ダブリン解説—『ユリシーズ』、民族、女性性、書くこと」英文学論叢 第43号 1999/12
21. 「『新しい女』の表象／「新しい男」の失敗—ハーディーのジュード」英文学論叢第44号 2000/12
22. 「遺贈される女性性—*Howards End* 分析」南山英文学 第25号 2001/3
23. 「異装する Gregory Rose—*The Story of an African Farm* の欲望」中部英文学 第20号 2001/3
24. 榎本義子著『女の東と西—日英女性作家の比較研究』南雲堂（書評）比較文学 第46巻 2004/4
25. （特集）英国小説のキャノンはいま 「『余った女たち』の都市とジェンダー」英語青年 第151巻/第2号 2005/5
26. *New Woman Fiction— Gender Representation at the Fin-de-Siècle* 別冊解説 共著 Athena Press 2006/7
27. 「デカダントなダンデーと「新しい女」の奇妙な関係」オスカー・ワイルド研究 第8号 2007/3
28. Nancy Armstrong, *How Novels Think: The Limits of Individualism from 1719-1900* (Columbia UP) (書評) ヴィクトリア朝文化研究 No.5 2007/11
29. 「*Mrs Dalloway* という身体—優生学言説をめぐって」英国小説研究 第23冊 2008/9
30. レイ・ストレイチ著『イギリス女性運動史 1792-1928』（出淵敬子・栗栖美知子監訳）みすず書房（書評）ヴィクトリア朝文化研究 No.6 2008/11
31. 「今によみがえるヴィクトリア朝文化」（Cora Kaplan, *Victoriana: Histories, Fictions, Criticism*）(Columbia UP) (書評) 関西英文学会研究 第2号 2008/12
32. 新井潤美著『自負と偏見のイギリス文化—J.オースティンの世界』岩波新書、『へそ曲がりの大英帝国』平凡社新書（書評）比較文学 第52巻 2009/4
33. 「*Sense and Sensibility*におけるシスターフッド」共著 英語英米文学論輯 第11号 2012/3
34. 「眼と耳から読む *The Return of the Native*」英国小説研究 第24冊 2012/8
35. 「ロンドンという多面的身体—*The Strange Case of Dr Jekyll and Mr Hyde* を読み直す」英語英米文学論輯 第12号 2013/3

36. 『『説得』における両義性—変革と回帰の狭間で』 共著 英語英米文学論輯 第14号  
2015/3
37. 「身体の復権に向けて—ユートピア小説としての『モーリス』」 — *Essays & Studies*  
第61号 2016/3

#### 学会発表・シンポジウム

1. 「ブルームとスティーブンの出会いについて」 日本英文学会中部支部第33回大会  
1980/10
2. 「<女>を読む『ユリシーズ』」 日本英文学会第58回大会 1986/5
3. 「ダブリン解説」(シンポジウム「変容する都市像—ロンドン、パリ、ダブリン」) 日  
本英文学会中部支部第45回大会 1993/10
4. 「同性愛でもなく異性愛でもなく」(シンポジウム「ジェンダー批評の可能性」) 第7  
回南山英文学会 1996/6
5. 「英米文学における家族制度の歴史」(シンポジウム「現代英米文学における家族/  
反家族」の司会兼パネリスト) 第8回南山英文学会 1997/6
6. 「ポリティカル・ボディとしての『M. バタフライ』」(シンポジウム「越境する身体」)  
日本比較文学会中部支部第4回大会 1997/6
7. 「揺らぐ男性性—*The Bostonians*におけるジェンダー・ポリティックス」 日本英文  
学会 第70回大会 1998/5
8. 「『新しい女』言説の変容」(シンポジウム「文化批評で何ができるか—映画、音楽、  
コミック、文学の表象をめぐって」の司会兼パネリスト) 日本比較文学会中部  
支部第12回大会 2001/11
9. 「ヒステリー症から拒食症まで」(シンポジウム「身体表象とジェンダー」の司会兼  
パネリスト) 第13回南山英文学会 2002/9
10. 「反ハリウッド映画としてのヒッチコック」(シンポジウム「〈帝国〉とアメリカ映  
画」) 日本英文学会 中部支部 第55回大会 2003/10
11. 「損なわれた身体とエクリチュール」(シンポジウム「身体のエクリチュール」の司  
会兼パネリスト) 日本比較文学会中部支部第19回大会 2005/4
12. 「デカダントなダンディーと『新しい女』の奇妙な関係」(シンポジウム「オスカー・  
ワイルドと『新しい女』」) 日本オスカー・ワイルド協会 第30回大会 2005/11
13. 「眼と耳で読むハーディ小説—*The Return of the Native*を中心に」 京都女子大学英文  
学会2011年度大会 2011/11
14. 「身体表象とアダプテーション」(シンポジウム「アダプテーションをめぐって」) の

司会兼パネリスト) 日本比較文学会第37回中部支部大会 2014/12

### 所属学会

- 1 日本英文学会
- 2 日本比較文学会
- 3 日本ヴィクトリア朝文化研究学会
- 4 日本ワイルド協会
- 5 日本ジェイムズ・ジョイス協会
- 6 テクスト研究学会
- 7 MLA